

社会人対象講座 キャリアアッププログラム

Basic subject Career Up Program

広島経済大学キャリアアップ・プログラム・メールマガジン 第140号(2015.05.21 発行)

このメルマガは、どなたに転送いただいても構いません。

なお、本メールが不要な方は career-up@hue.ac.jp までご連絡ください。

【過去の CP 通信をご覧ください】: http://www.hue.ac.jp/lecture/careerup/cp_magazine.html

【目次】

- ・巻頭言.....広島経済大学 経済学部
教養教育部 准教授 木本 一成
- ・1 学期開講しました 授業風景(写真)
 - CP 水曜日 生産管理論の基礎
 - CP 水曜日 ビジネス文章表現
 - CS 水曜日 戦国武将の実像と虚像
- ・2 学期カルチャー講座(CS)のご案内 コンピュータで見た宇宙と物理の世界
- ・オープンキャンパスのお知らせ
- ・経大見聞録
- ・読者からのエッセー
- ・読者の皆様からのエッセーの投稿をお待ちしております
- ・キャリアアップ・プログラム(CP)/カルチャー講座(CS)または本学に関する、ご質問やお問い合わせ

■巻頭言

広島経済大学 経済学部

教養教育部 准教授 木本 一成

1 学期 CP 講師『ビジネス文章表現』

あるディベートの授業を観て

ずいぶん前のことだが、ある中学校の国語の公開授業でディベートをしているのを参観した。論題は、「大型商業施設を我が町に誘致すべきである」というようなものであった(ずいぶん前のことでしかもその時の記録も見つからなかったので、あやふやな記憶だけを頼りに書いている)。その当時は、ディベートの授業がはやっていた頃で、小・中・高の校種や学年、教科にかかわらず、教育現場で広くディベートが取り入れられていた。

さて、この授業もそのような風潮の中で行われた授業であり、教師も生徒も新しいスタイルの議論に戸惑いながらも積

極的にその新しさを吸収したいという雰囲気があった。立論では、肯定側・否定側のそれぞれが、前時までに考えて用意してきた主張をぴったり制限時間内に話し終えようとよどみなく読み上げる。たとえば、こんな具合である(と思ってその場面を再現しようと思ったのだが思い出せないの、要点だけを記す)。

<肯定側>

- 我が町はどんどん人口が減少し、衰退しつつある。駅前の商店街もシャッターが下りたままになっている店もある。大型商業施設の誘致は、町に活気を取り戻すのに有益である。
- これまで近くに大きな店がなかったので、車に乗って遠くの町まで40分以上かけて行かなければならなかった。近くに大型商業施設ができれば、自転車で買い物に行けるようになる。
- 大型商業施設ができると、町の中に大人の人が働く場所ができる。わざわざ遠くまで働きに行かなくてもすむ。特に、子育て中の人は、近くで働くことができるととても便利になる。

<否定側>

- 大型商業施設ができると、みんなそこに買い物に行くようになり、町の商店街はお客さんが来なくなってつぶれてしまう。
- 大型商業施設には多くの買い物客が来るので、騒々しくなる。店員の客を呼ぶ声などがはっきりなしに聞こえて、近くに住んでいる人は迷惑だ。特に、近くに住む高齢者や病人のことを思うと大きな問題だ。
- 騒音だけではない。大型商業施設は夜遅くまで照明がついている。近くに住んでいる人は、その明かりが部屋に入ってきて睡眠不足になる。

いずれももっともな主張である。

やがて議論は、作戦タイムをはさんで反論の時間になった。しかし、ここから議論はぎくしゃくし始める(というよりも停滞する)。たとえば、否定側が次のように反論する。

<否定側の反論>

- すぐ近くにあると便利すぎたり慣れすぎたりして、行きたいという気持ちが薄れる。かえって遠くの町まで買い物に行きたいという気持ちになることもある。
- 子育て中の親にとっては、近所に大型商業施設ができるとクルマの交通量が増え、子どもの交通事故を心配するようになる。

子どもらしい素朴な発想であり、いくらでも言い返すことができそうな内容である。しかし、これに対して、肯定側はほとんど何の主張もできず黙り込んでしまう。そして、そのまま時間が過ぎて肯定側の反論タイムになる。

<肯定側の反論>

- 近くの照明で眠れないのであれば、窓のカーテンを厚手の物に変えればよい。
- 騒々しいのであれば、家の窓を二重にしたり防音壁にしたりすればよい。

これもさきと同様に子どもらしい素朴な発想なのだが、これに対して否定側も有効な反論返しができず、ほとんど発言することもなく時間切れとなる。

このあと、このディベートは、最終弁論、判定と続いていったが、その頃には当初のころの活気のようなものはなくなっていた。

なぜこうなったのだろうか？

議論の材料になる話題はたくさん出てきた。おそらく原因は、それらの話題を整理し、焦点化することができなかったことにあるのだろう。人口減少、雇用創出、消費行動、住環境、仕事と子育てなどのどれかに問題を限定できれば、議論はもっと活性化しただろう、といえはおそらくその通りだろう。また、他者理解という視点で考えれば、相手の立場に立って考えることが十分できなかつたからである、ということもできるだろう。

しかし、ここではあえて別の原因を考えてみたい。それは、言葉のズレの問題である。双方の主張の中に「近い」という言葉が出てくるが、よく聞いてみると、それぞれが思い描いている「近い」のイメージが微妙に異なる。

肯定側は「近い」を、「遠くない」という意味で用いており、自転車で行ける程度の距離を言っている。これに対して否定側は、「近い」をほとんど「隣接する」という意味でとらえているようである。自転車で行けるから「便利」なのであり、隣接したところに行けるから「迷惑」なのである。

言葉のズレは初歩的な問題なので、ディベートの際にそれに気づかないのは愚かである、というのは簡単だが、わたしたちだって、同じようなことを日常生活で頻繁に経験している。気づかずに見過ごしているのである。(この通信をご覧の読者の皆様を勝手に「わたしたち」とひとくくりにして、大変失礼いたしました。「わたしたち」を「わたし(筆者)」に置き換えてお読みください。)

たとえば、新聞記事に「地方の活性化」という言葉を見つけると、わたしたちは「地方」を漠然とイメージする。そして、その「地方」が、今は衰退しつつあるがやがて活性化するのだろうと勝手に思い込む。しかし、新聞記事が伝えるところの「地方」とは、わたしたちが普段思い描くところの地方とは少しイメージが異なる。やがて、地方を活性化する事業が進み始めると、「地方」のイメージが具体的に見えてくるようになる。その時になって初めて自分が思い描いていた「地方」の理解が誤りであったことに気づくのである。

学問の世界では、このような初歩的な問題が生じないように、最初に言葉を定義したり、対象や範囲を限定したりする。また、「近い」などのような感覚的な言葉や表現を避けて、専門用語や具体的な数値で指し示すようにする。自分が担当するキャリアアップ講座の「ビジネス文章表現」の授業でも、このような定義や専門用語、数値による表現の重要性を伝えている。しかし、この文章を書きながらわかりきったことをふと思う、定義や専門用語、数値で指し示すことができる世界は世の中の事象のごく一部に過ぎないことを。また、定義や専門用語で指し示そうとするためにそれで示されないことがらをたくさん切り捨てていることを。

言葉のズレがないことはもちろん大切なことだが、言葉のズレがないようにと気にしてばかりいるとかえって大事なことを失ってしまうこともある。かつて観たディベートの授業を思い起こしながら、最後は禅問答のような心境に至っている自分に気がついた。

■ 1 学期の開講風景です

昨日の 5 月 20 日 水曜日 から CP と CS の講義が始まりました。

CP 通信、恒例の授業風景をお伝えします。

キャリアアップ・プログラム 水曜日 生産管理論の基礎…講師:岡田 斎(経営学科 教授)



キャリアアップ・プログラム 水曜日 ビジネス文章表現…講師:木本 一成(教養教育部 准教授)



カルチャー講座 水曜日 戦国武将の実像と虚像…講師:長谷川 泰志(教養教育部 教授)



受講生の皆さま、お疲れ様でした！！

■ 2 学期カルチャー講座 (CS) のご案内

少し気が早いかもしれませんが、2 学期のカルチャー講座のご案内をいたします。

2 学期のカルチャー講座では秋の夜長に観る星空と宇宙、そして物理学の分野においてコンピュータによって解き明かされた姿が紹介されます。今まで聞いた事のない、とても興味深い講座となることでしょう。

お申込みは <http://www.hue.ac.jp/lecture/culture/index.html> から宜しく願います。

【講義日】10/21,10/28,11/4,11/11,11/18,11/25 毎週水曜日 計6回講義 受講料 5,000円

※カルチャー講座は、定員20席ですので、定員になり次第、募集は打ち切りますので、お早目のお申込みをお願いします！

2 学期カルチャー講座シラバス	
担当者名	高石 哲弥(たかいし てつや)
科目名	コンピュータで見た宇宙と物理の世界
副題	コンピュータで探る・宇宙・素粒子・磁石・金融
全体の授業内容	コンピュータの性能は毎年向上しており、コンピュータを利用することで複雑で計算に時間がかかる事象も解析が可能となってきています。本講座では宇宙と物理学の分野でコンピュータによって解き明かされてきた姿を紹介します。
授業内容	第1回 10/21 テーマ:星の一生 星にも誕生から死に至る一生があります。星の一生とはどういうものかを紹介します。また、流星群についても紹介します。
	第2回 10/28 テーマ:宇宙の歴史 観測技術の向上によって宇宙の新しい姿が明らかになってきています。これまでに明らかになった宇宙の姿を紹介します。
	第3回 11/4 テーマ:コンピュータで探る宇宙 ビッグバンで始まった宇宙がどのように進化してきたかをコンピュータで探ります。
	第4回 11/11 テーマ:磁石のモデルのコンピュータシミュレーション 物理学では磁石のモデルとしてスピンモデルがあります。このモデルからわかる磁石の性質について紹介します。
	第5回 11/18 テーマ:磁石のモデルで株式市場をシミュレーションする 物理学では磁石のモデルとしてスピンモデルがあります。このモデルを利用した株価のバブルやバブル崩壊のシミュレーションを紹介します。
	第6回 11/25 テーマ:コンピュータで探る素粒子の世界 スーパーコンピュータによって素粒子の性質を調べる方法を紹介します。また、スーパーコンピュータとはどのようなコンピュータかについても紹介します。
授業の進め方	スライドを利用しわかりやすく進めようと思います。
教材費などの追加負担	教材費の負担はありません。
受講者へのメッセージ	コンピュータが解き明かす新たな世界を楽しみましょう。
講師紹介 (自己紹介)	高石 哲弥(経済学部 教養教育部 教授) 1967年徳島県生まれ。広島大学大学院理学研究科修了。博士(理学)。1997年より広島経済大学勤務、現在教授。専門は計算物理学。現在の主な研究テーマは金融データ分析、スピンモデルによる金融市場解析等。大学では自然科学(物理学、天文学、地球科学)を担当。



【オープンキャンパス】 http://www.hue.ac.jp/exam/open_campus/index.html

ところで、オープンキャンパスは本学の PR だけではなくありません。入学されるお子様が本学でどのような学生生活を送るのか、学業・資格取得等はもちろんのことですが、大学生としての生活面等での不安の解消、また大学選別のミスマッチを防ぐために開かれている行事です。

大切なお子様が本学へ入学して良かったと思える 4 年間を過ごすための行事でもあるのです。当日は、保護者対象の説明会等もごございますので、お子様と一緒にご参加をお待ちしております。

【無料送迎バス】 県外・県内からバスが出ておりますので、URL でご確認ください。

<http://ec-knt.jp/hue/index.html>

【オープンキャンパス日程】

- 第 1 回目 6 月 14 日 日曜日
- 第 2 回目 7 月 25 日 土曜日
- 第 3 回目 7 月 26 日 日曜日
- 第 4 回目 8 月 30 日 日曜日
- 第 5 回目 11 月 15 日 日曜日(ミニ・オープンキャンパス in 経大祭)

■経大見聞録

本学の HP に掲載してある記事をご紹介します。生き生きした明るい学生の表情がうかがえます。URL をクリックして、本学の学生たちの様子をご覧くださいいただけます。

お仕事等の気分転換、コーヒープレイクにご覧いただけましたら幸甚です。

【5/15】平成 27 年度 広島経済大学 入試相談会の情報を公開しました

http://www.hue.ac.jp/exam/ev_confer.html

■読者の皆様からのエッセーの投稿をお待ちしております

皆様からのエッセーを募集しています。日常の出来事、つぶやき何でも構いません。また匿名やペンネームで結構です。ご投稿をお願いいたします。(個人情報の取り扱いは十分配慮いたします)

【エッセーご寄稿頂ける方は】

どなたでも結構です。ご寄稿頂ける方は career-up@hue.ac.jp または 082-871-9345 までご連絡ください。掲載の日程をご連絡いたします。

■キャリアアップ・プログラム(CP)やカルチャー講座(CS)または本学に関する、ご質問やお問い合わせは下記の連絡先へご連絡ください。

〒731-0192

広島市安佐南区祇園五丁目 37-1

広島経済大学 教育・学習支援センター

お問い合わせは電話番号(082)871-9345 または E-mail career-up@hue.ac.jp までどうぞ。

HUE 広島経済大学
CAREER UP PROGRAM